

# 第 11 回エコエリアやまがた推進コンクール 最優秀賞（山形県知事賞）

※掲載している情報は平成 28 年度時点のものです。

名 称	J A 山形おきたま飯豊地区青年部
所在地	飯豊町
応募タイトル	食農教育の継続が生み出した「農都交流」

## 1. 取組の背景・経過等

### (1) 応募区分（販路拡大）の取り組み開始年

J A 山形おきたま飯豊地区青年部（以下「J A 青年部」という。）と都市住民との交流は、平成 16 年に東京の小学校 100 校に稲作体験出前授業を行うという手紙を送り、その年の 2 校への出前授業を皮切りに開始された。出前授業は、都内に出向いての取組みであり、山形から東京への一方方向の取組みであるが、平成 18 年からは、都内の小学生を受け入れての農業・農村体験も実施し、東京から山形方向への取組みも開始された。さらに、平成 25 年以降、都内商店街とのブランド開発や都内商店街へのアンテナショップ開店、学校給食への町内米納入など次々に新たな展開を見せている。

### (2) 動機

飯豊町は人口減少ともなう過疎化が進行しており、こうした状況を打開するため、子育てしやすい町づくりなど人口増加政策と同時に「交流人口」の拡大を目指しており、首都圏をはじめとした大消費地への直接的な交流展開を志向していた。

このような状況の中で J A 青年部では、町の施策と呼応するように、稲作体験出前授業を柱とした食農教育事業への取組みを開始し、農業者が直接、都会の消費者とふれあう機会を作り出し、飯豊町（行政）や町内事業者（農業者を含む）と連携した都市との交流事業の創出と運営を行ってきた。東京の小学校へ出向いた際に感じたのは、児童や保護者の多くが「農薬は怖いもの」、「化学肥料はいけないもの」という考えを持っている、ということであった。このため、学校田で作る米は農薬を使用せず、堆肥施用による栽培を実施し、学校田で害虫が発生した時には、学校側と相談のうえ、人手による害虫駆除等を行った。

これらの交流事業を通じて、J A 青年部員は、今消費者が農産物に求めているものが何であるか、これから消費者に何を伝えていかなければならないかを考えるようになり、環境に配慮した農業への意識が部内で高まっていった。

### (3) 経営状況（面積、取扱い品目等）

J A 青年部員 53 名のうち、主要な取組み者 5 人のみ抜粋。

面積：A=10ha、B=17ha、C=7ha、D=12ha、

E=22ha 計 68ha

取扱品目：米



写真 1 学校給食に飯豊米を納入

### (4) 販路先

#### ア. 学校給食への納入

稲作体験出前授業や農業農村体験をきっかけに平成 19 年度から農薬・化学肥料を 5 割削減した特別栽培米「山形おきたま米」を東京の小学校の学校給食へ納入している。初年度の 1 校から、21 年度は 4 校 16,000 kg、22 年度は 7 校 20,000 kg と着実に納入数を増やし、27 年度には「はえぬき」を 12 校 24,000 kg 納品する実績をあげている。



写真 2 アンテナショップでの販売

#### イ. ブランド米の販売

学校給食での販路拡大を契機に交流が深まった高円寺純情商店街と協同で、ブランド米「純情米（じゅんじょうまい）」と純米酒を開発した。平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 年間で「純情米」約 600 袋（5 kg 袋）、純米酒（ワンカップ）

を約 3,000 本販売した。

#### ウ. アンテナショップ及びイベントでの販売

飯豊町が進める「農都交流」事業の基幹的役割として、平成 26 年に都内高円寺にアンテナショップ「高円寺チャレンジショップ」を開店した。高円寺チャレンジショップおよび周辺商店街のイベント直売では、平成 26 年度から平成 27 年度までの間で、約 150 万円を売り上げている。

#### (5) 環境保全型農業直接支払交付金の参加状況

J A 青年部の環境保全型農業直接支払交付金への参加状況は、53 人のうち本事業を中核的に行っている全てのメンバーを含み、12 人が取り組んでいる。

#### (6) 各種認証の取得状況等（エコファーマー、特別栽培農産物認証、有機 JAS 認証、GAP 等）

環境に配慮した農業に関する各種認証の取得状況は下記のとおり。

- ・特別栽培米認証：平成 12 年から取り組んでおり、7 名が特別栽培米の認証を得ている。J A 青年部が高円寺アンテナショップ等で販売を行っている米は、ほぼ全量が特別栽培米である。
- ・エコファーマー認定：平成 17 年から取組み、米で 5 名が認定を受けている。
- ・J-GAP：平成 18 年からの取組みであるが、都市との交流の取組みを立ち上げたメンバーの 1 人が全国初となる「穀物」で認証を習得しており、先進的な取組みとして注目されている。

## 2. 取組内容

### (1) 実践している栽培技術や生産工程管理（GAP 等）

米沢牛の主要産地である飯豊町では、牛糞を主体に稲作農家の稲わらや、林業に由来する木材チップを副資材として用いた堆肥が使われており、町内における耕畜連携が図られている。

J A 青年部員によって取組みは異なるが、土壌診断はほぼ全員が実施しており、飯豊町の「エコプラントめざみ」を活用した堆肥散布は、ほぼ全農場・全区画で行っている。稲わらのすき込みは個人によって量が違うが、降雪が早いいため、春のすき込みがほとんどであり、炭素貯留による温室効果ガスの発生抑制に貢献している。

経営的な観点からも、栽培管理記録簿・GAP チェックシートの記載・提出の徹底を図り、農薬の量・回数の削減を図っている。生産工程管理では、異品種・異物混入（コンタミ）防止を確実にするため、若手メンバーが中心となり、共同精米所の機械類の清掃を定期的かつ複数によって確実に実施する等を徹底して行っている。

環境保全型農業・有機農法技術の習得・向上については、青年部メンバーが加入する J-GAP への取り組みを行っている飯豊町の米生産者「美味倶楽部（うまいくらぶ）」の会員と GAP 取得・更新に関する情報交換を行うとともに、同会員から生産管理手法などを学んでいる。

また、特別栽培米の取り組みを行うメンバーは、ほぼ全量を特別栽培米として生産している飯豊町の「飯豊米ネットワーク」に加入している生産者から特別栽培米の効率的生産技術や、卸業者や消費者が求める水準を意識した生産方法について技術的指導を受け、特別栽培米の取り組み面積を順次拡大している。

### (2) 地域や関係者との連携や集団・組織的な活動内容

飯豊町（官）と、飯豊町商工会など地域の団体とともに、東京・高円寺チャレンジショップ運営の要である高円寺銀座商店会協同組合＝高円寺純情商店街（民）、東京都の学校法人女子美術大学（学）と連携して東京都で開催されるイベントの商品販売やポスター・装飾品の制作を行うことにより、消費者等との交流活動を活発化させている。

具体的には稲作体験出前授業参加校や小学校を管内とする商店街等のイベントへ出展（新宿区落合夏まつり、杉並区純情夏まつり、横浜開港祭など）を行っている。

#### 【生産側（飯豊町）】

J A 山形おきたま  
(主体) J A 山形おきたま飯豊地区青年部  
飯豊町若手農業者  
飯豊町商工会青年部

#### 強い結びつき

#### 【消費側（東京）】

高円寺純情商店街  
高円寺銀座商店会協同組合  
女子美術大学

### (3) 消費者・実需者との関わり、販路拡大の取組み等

#### ア. 稲作体験出前授業の実施

平成 16 年に東京の小学校 100 校へ稲作体験出前授業を行うという趣旨の手紙を送り、同年の 2 校（新宿区立落合第二小学校、大久保小学校）を皮切りに、都内において毎年 2～7 校の小学校に出向き、5 年生を対象に稲作体験出前授業を実施してきた。その活動は現在も続いており、12 年間でのべ 55 校、3,300 人の子どもたちへ指導を行っている。



写真 3 稲作体験出前事業

#### イ. 農業農村体験の実施

活動 3 年目となった平成 18 年度からは、都市に出向くだけでなく、都市から飯豊町へ招く形での農業・農村体験を実施し、山形から東京への「一方通行」から東京・山形間の「双方向」事業に発展させた。これまで足立区立上沼田小学校（のべ 5 回）、杉並区立杉並第六小学校（延べ 8 回）、杉並区立杉並第四小学校（のべ 3 回）、杉並区立桃井第二小学校（のべ 2 回）の飯豊町での農業体験受入れを行っている。飯豊町を訪れた小学校はのべ 18 校で、児童数 500 人が実際の田んぼで地元住民とふれあう農業農村体験を行っている。農業体験の中では、農薬や化学肥料に対する「農家の考え」を率直に話し、農薬・化学肥料の削減に取り組んでいる現在の農業について教えるようにしている。現場では、ラジコンヘリによる農薬の散布を見せたり、牛糞堆肥を散布する作業について説明している。



写真 4 都市の子供たちの体験

#### ウ. ブランド開発

出前授業や訪問体験をとおした食農教育の継続で得た信頼関係をもとに、平成 25 年度に東京都杉並区の高円寺純情商店街とブランド開発に着手し、ブランド米「純情米」と日本酒（ワンカップ 3 種類）と一升瓶を協同開発している。「純情米」の袋には、高円寺と飯豊町とのつながりが書かれているほか、「特別栽培米は通常より半分以上化学肥料、農薬を減らしている」といった文言を記載し、JA 青年部が行なっている環境に配慮した米栽培について PR している。



写真 5 ブランド米

#### エ. アンテナショップの開店

飯豊町・商店街の協力を得て、平成 26 年度に高円寺純情商店街内にチャレンジショップ（アンテナショップ）を開店。生産者の顔が見える販売と、飯豊町の都内における情報発信・活動の拠点として運用している。

店内には栽培風景を紹介した写真が飾られ、「顔が見える農家」をアピールしているほか、特別栽培米とはどのように栽培した米なのかが書かれた商品パンフレットを置いている。



写真 6 高円寺チャレンジショップの状況

### (4) 人材育成活動

高円寺チャレンジショップは、飯豊町が進める「農都交流」「移住促進」事業の基幹的役割を果たしており、年 3 回程度「移住セミナー」を開催し、地方への移住や Uターン希望を検討している都市住民への情報提供を行うほか、飯豊町出身者で組織する「東京飯豊会」の役員会や会合の開催など、東京飯豊会の活発な活動拠点となっている。

当飯豊地域の農家は「有機農業」という観点が必要不可欠となっており、若手農業者や新規就農希望者は、必ずといってよいほど「有機農業」「直接販売」を希望しているという現状がある。そうした希望に応えていくため、個人ではなく「地域」



写真 7 ショップ内で就農希望者と懇談

で推進していくという視点が必要となっており、地域農業を支える担い手として技術的な面だけでなく「考え方」や「生き方」を含めた情報交換・意見交流の場の創造に向けて、J A青年部を含む若手農業者の会＝風土会（ふうどかい）の組織化や「飯豊農業未来塾」といった会合開催により、そうした取り組みへの合意形成を行っている最中である。

### 3. 成果

#### (1) 実践している栽培技術や生産工程管理（GAP等）の成果

GAPの取組によって、環境保全及び生産管理についての意識が著しく向上し、消費者が求める「安全」「安心」「安定」について生産者としてどう対応していくかを考える契機となっている。

特に、2020年の東京オリンピックでは「GAP」認証を受けた農産物しか指定を受けられないとの情報もあることから、J A青年部のJ-GAP取得者が講師となり、制度や取得に向けた研修会を開催するといった動きが出始めている。

#### (2) 経営上の効果

##### ア. チャレンジショップの効果

チャレンジショップは、町内の農業後継者および新規就農者の団体構成員が直接販売を行う拠点として利用しており、顧客の開拓だけでなく、生活者の生の声を聞く機会、飯豊町への移住を促進する情報拠点として活用しており、農業者の世代交代、新たな販路開拓の中核を担う場所作りへの展開を見せている。

##### イ. 商品開発のリサーチ

店舗運営を通じて東京の商店街と飯豊町の農業者が直接交流することができるようになり、商品開発に役立つ情報をリサーチする場ともなっている。

例えば、これまでは、直売やイベントでの販売において、米の量目については、一般的な2kgや5kg袋を主としていたが、「お試し」として持ち帰りやすい1kgや3合入り、プレゼント用の2合入り真空パックなど、場所や内容別にパッケージを変える手法を実践している。また、無洗米への需要が高いことから、精米設備の更新を行い、飲食店などの要望に応える体制を整備している。

野菜類についても、鮮度が高いアスパラガスは生食ができるほど柔らかく、青臭さが少ないというPRが浸透してきたことで、飲食店だけでなく一般の消費者の購入拡大につながっている。果樹ではサクランボについて、時期や値ごろ感を消費者から直接聞くことができたことにより、適正なランク付けや最も売れるサイズなどを把握することができている。

現在、チャレンジショップで販売している米は全て特別栽培米等の環境に配慮した米であり、加えて健康志向の客層から要望の強い玄米も一定量販売している。ショップの周辺にはチェーン店の米穀店が数軒あるが、「生産者が分かる」「生産者が直接売りに来ている」「生産者がいろいろな疑問に答えてくれる」という点で他店と差別化を図ることが出来ている。「新鮮」「美味しい」に加え「安全」「安心」が見えるということから、環境に配慮した農産物の新しい販売・PRの場となっている。

#### (3) 地域に与えた影響

##### ア. 稲作体験出前授業・農業農村体験の効果

子供たちを通して保護者や学校関係者と話す機会が増えたことで、消費者の生の声を聞くことができるようになり、農業について話し合う場も何度か持つことができた。その結果、現在の農業は昔の農業に比べて危険性や残留性が低いことや、回数・期間についても厳密な取り決めがあることを説明することができ、「顔の見える関係」こそが安全・安心の根幹であることを再認識した。農業農村体験から戻った子供たちも、学校での体験発表の際にこうした農業の実態を盛り込んだものが多く見られ、農業、農村の実態を知るよい機会となっている。

また、学校給食米については、学校の管理栄養士が納入に強い権限を持っていることが分かり、新宿区の学校栄養士会の場で、環境に配慮した生産方法や農家の考え方を説明する機会を得たことで、理解促進に結びつき、納入校数の増加につながった。さらに、学校や近隣のイベントで直接販売することで、消費者と直接話す場面も多くなり、有機米などへの要望や、価格・数量のバランスに目を向けるきっかけができた。

##### イ. 農商工連携や6次産業化

J A青年部は、チャレンジショップにおいて、飯豊町の農業者が直接販路開拓や、営業拠点とし

て利用できる体制を作ったことで、農商工連携や6次産業化への起爆剤となる役割を担っている。  
具体的には、J A青年部を含む飯豊町の農業生産者にとっては、最大の商圈である東京に拠点を持つことで、これまでは日帰りや1泊程度しかできなかった営業活動を、より長期間で密接に行うことができ、東京以西（名古屋や大阪など）へも活動の範囲を広げている。併せてチャレンジショップ内での飲食が可能なことにより、試食や酒食を伴う営業にも役立っている。

#### ウ. 農業の現状を伝える機会

農家が直売することで、農業に興味を持つ人たちへ丁寧な説明を行うことができ、就農希望者の発掘や食に関心を持つ人へ、農業の現状を伝えるまたとない機会となっている。

#### (4) 人材育成活動の結果

チャレンジショップにおける「農都交流」「移住促進」事業の結果、平成26年度以降、4名が飯豊町に移住・農業に従事しており、今後環境に配慮した農産物の栽培と都内消費者をターゲットとした販売を希望している。

### 4. その他特記事項

#### 5. 今後の活動方向

J A青年部は、これまでの「地産都消」の活動で、都会の消費者（生活者）の有機農産物や環境に配慮した農産物への強いニーズをひしひしと感じたことにより、メンバーの間では、これからの農業は環境問題や有機といったキーワードを無視した活動はありえないとの認識で一致している。一方、富裕層や有機のみにこだわった特定の消費者層だけをターゲットとすることには強い抵抗感を持っている。

さらに、J A青年部では、肥料・農薬の使用が少なく済むラズベリーを、果樹栽培が少ない飯豊町の新たな産物に育て、荒廃地の再生、省力化の手段として育てていこうという機運が高まっている。また、Uターンを含む新規就農者の中には、自らの個性を発揮する手段、他の商品（農産物）との差別化を図るという点で、「有機農業」での米づくりを志向し、一部のほ場で実験的に「無肥料」や「不耕起」での栽培に挑戦し、養鶏（卵）との複合経営で、自然と一体となった特徴ある農業へ動き始めた者も出てきている。

これからの農業に必要なのは、インターネットの時代であっても、互いの顔が見え、意見を交換できる真の絆である。そこから導き出されるのは「安心」「安全」に加えて「安定」と「適正な値ごろ感」という共通の価値観であると考えている。

そのため、消費者の生の声を聞き、それを生産に活かすことは、次代を担う農業者全てに当てはまることであり、生産と消費の現場をつなぐ有力な手段として、「高円寺チャレンジショップ」を始めとした都会の拠点作りを進めていくことは重要であったと考えている。

今後は、これまでの活動を継続していくとともに、特に、農業農村体験の実施に力を入れていきたいと考えており、具体的には、都会の消費者が飯豊町を訪れた際に自由に収穫などの農業体験ができる米や果樹（ラズベリー）の圃場を整備し、都会の生活者が実際の農業・農村に触れることができる魅力ある飯豊町にしていきたいと考えている。

現在、飯豊町では環境保全や有機農業について先駆的取り組みを行っている「美味倶楽部」や「飯豊米ネットワーク」などの生産団体の若いメンバーを中心に、技術や経営などの情報交換を通じて、よりいっそう「環境」に配慮した米づくりを目指す機運が高まっており、特別栽培米の生産面積の拡大や、J-GAPからさらにG-GAPの習得に向けて情報収集を行う者も増えてきている。

また、飯豊町チャレンジショップの誕生により、これまでバラバラに活動していた地域の農業団体が、「消費者ニーズに応える米づくり」をさらに進めていくという共通の目的のもと、情報収集や消費者の生の声を聞く場を得たことで、実益を伴った連携を築き始めている。これは、これまで所属組織の枠に少なからず縛られていた若者たちが、地域を包括する団体の結成に向けて動き出す大きなきっかけを、当ショップが担っている証であり、こうした独立した個々の経営者がゆるやかに結合する姿こそ、地域農業の維持・発展の礎となると信じている。